

分野 ( 2 ) 気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究

研究課題名：①就学期の患者の効果的な教育、指導モデルの構築

申請課題名：就学期の患者の効果的な教育、指導モデルの構築に関する研究

調査研究代表者氏名：小田嶋博

### 1. 評価軸別の評価

大変優れている(5点) 優れている(4点) 普通(3点) やや劣っている(2点) 劣っている(1点)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 研究成果目標(目的)の達成度	1人	2人	3人	0人	0人	3.7
(2) 研究計画の妥当性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
個別評価平均						3.8

### 2. 総合評価

(1) 評価基準に沿った評価	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
(2) 記述評価						
<ul style="list-style-type: none"><li>・小中高校の各個別の研究プログラムの成果がまとまって示されて研究成果があがっている。</li><li>・長年にわたって同一地域で同一の手法で喘息などの経時変化を調査して来て蓄積されたデータは貴重である。</li><li>・喘息患児の予後改善のため、寛解率改善のために治療上問題のある患者をピックアップし、いかに指導してゆくか、さらに治療を阻害する因子についても検討している。</li><li>・既に長い歴史をもつチームであり、行ってきた研究対象者の現在と過去のデータとの比較が見られるとありがたい。</li><li>・同一地区での長年にわたっての調査研究の成果は貴重である。今後とも継続されデータを集積してもらいたい。</li><li>・就学期の患者に対する教育や指導は将来成人になっても大きく役立つと思うので、優れたモデルを作成、確立してもらいたい。</li><li>・就学期が小学校から高校にまで広がっているので、その時期にあった効果的な教育・指導モデルも異なると考えられ、一連のモデルが完成すれば意義が大きいので、次年度以降の成果に期待する。</li><li>・ダニ特異IgE値、V25、MMFなどが気管支喘息発症の高いリスク因子として示されたことは、今後の有用性が高い。</li><li>・小学生での指導と中途発症者(小学生中一高学年)の原因、中学生の禁煙教育の成果、高校生の成人喘息への移行の因子等の解明が期待される。種々の機会(学会等)でその成果が発表されているが、国際雑誌への情報発信も望まれる。</li></ul>						

・学校をフィールドとして調査研究を行うのは大変難しいが、広域かつ長期にわたり実施してきたことを高く評価する。福岡を中心とした永年に亘るフィールド調査を整理し、介入の効果を明らかにすることと、千葉県における全県の学校調査をさらに発展させていきたい。